

令和7年度宇部工業高等専門学校自己点検・評価結果

1 評価

評価の概要

宇部工業高等専門学校アセスメントプラン（自己点検表）基準1から基準10までの点検項目について、実施状況（各部署による自己点検結果）を「S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である」の4段階で評価した。

各基準の自己点検に対する評価の概要を以下に示す。

（基準1）教育の内部質保証システム

- ・概ね良好と判断する。
- ・「宇部工業高等専門学校における自己点検・評価に関する基本方針」に基づき、令和6年度の自己点検・評価を実施し、本校Webサイトにて令和6年度自己点検・評価結果を公表した。

（基準2）教育組織及び教員・教育支援者等

- ・良好と判断する。
- ・機能強化支援事業において社会ニーズに対応した学科改組やコース設置を行い、次年度から新たな構成で取り組むこととしている。

（基準3）学習環境及び学生支援等

- ・良好と判断する。

・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。

- 各種委員会を開催し、対応している。学内向け「クラウドサービス利用運用ガイドライン」を作成した。【3-10】
- 昨年度に全学生を対象として実施したICT環境に対する満足度調査の結果に基づき、改善可能な内容について改善を行った。今年度も、全学生を対象に満足度調査を実施した。【3-12】
- ポスターコンクール、ブックハンティング等利用推進のイベントを実施した。教職員、学生からの希望図書募集した。図書館だよりを年2回発行した。【3-15】
- 技能検定を新たに支援制度に追加し、受験者に対して技術指導を実施している。令和7年度は延べ127名が利用した。【3-29】
- 就職が決定した現5年生を対象に8月にアンケート調査を実施し、キャリア教育の効果を検証した。具体的には、低学年へのキャリア教育の追加、ならびに3・4年生を対象としたジェネリックスキル教育について、内容の改訂および実施時期の見直しを行った。【3-32】
- 就活アンケートの学生の困り事対応で、就職進学活動ガイドブックの内容を見直し、大幅な改訂を行った。「就職・進学活動のメンタルヘルス講習会」でガイドの説明を4年生に対して11月中旬に前倒しして実施し、12月12日の合同企業研究会につなげた。【3-33】
- 日本体育大学と包括連携協定を締結し、FD・SD研修や課外活動指導員に対する講習会を実施した。【3-34】
- クラブ指導教員会議を開催し、安全管理について周知を行った他、課外活動指導員との連絡体制構築を行った。また、課外活動巡視員を2名雇用し、土曜日の課外活動の安全管理を行っている。【3-36】
- 寮生会主催で週に1回程度、低学年生を対象とした勉強会を実施した。【3-38】
- 修学支援センター体制によるいじめ防止及び早期発見に努めている。【3-40】

（基準4）財務基盤及び管理運営

- ・良好と判断する。

・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。

- 各種委員会を定期的または必要に応じて開催し、所掌事項を審議・報告している。学内で開催される全ての委員会の議事概要等を全教職員が共有できるようにしている。【4-11】

（基準5）準学士課程の教育課程・教育方法

- ・概ね良好と判断する。

・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。

- 夏季においては前年度よりも多くの学生が留学し、グローバルエンジニア育成事業に係る学生数が増えた。また、地域教育など課題解決型の授業を通して、コンテストに参加する学生が増えた。【5-6】

（基準6）準学士課程の学生の受け入れ

- ・良好と判断する。

・令和6年度推薦入試での活動記録の評価と入学後の成績の相関を確認し、活動記録による評価を廃止した。【6-4】

（基準7）準学士課程の学習・教育の成果

- ・良好と判断する。

・本年度も高い就職率・進学率を維持しており、本校の学習・教育の成果が認められる。【7-6】【7-7】

（基準8）専攻科課程の教育活動

- ・概ね良好と判断する。

・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。

- 準学士課程のカリキュラム改善を受け、令和5年度より準学士課程の教育を発展させた新カリキュラムとなっている。現カリキュラムの課題として「専門英語」が挙げられたため、各学科に改善策についての審議を依頼した（第6回専攻科委員会）。【8-2】

（基準9）研究活動の状況

- ・良好と判断する。

・本校の目的・方針に沿った研究活動を実施しており、これらの成果を地域共同テクノセンターNews & Reportで公開している。

（基準10）地域貢献活動等の状況

- ・良好と判断する。

・今後の地域貢献活動に関して、テクノセンター推進室会議、テクノセンター委員会での決定に基づいて方針の変更を行なった。

2 改善を要する点

改善を要する点

B評価（概ね良好である）で一部改善を要すると判断した点は、以下のとおりである。

（基準1）教育の内部質保証システム

○1-4 一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。また一部学科からPC故障による成績資料保管の不備が報告された。

（基準5）準学士課程の教育課程・教育方法

○5-12,17,21,22 一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。また一部学科からPC故障による成績資料保管の不備が報告された。

（基準8）専攻科課程の教育活動

○8-9,15,16 一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。

令和7年度宇部工業高等専門学校アセスメントプラン（自己点検表）

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
基準1 教育の内部質保証システム			
【内部質保証】			
1-1 自己点検・評価の方針は関係法令に適合しているか。	自己点検・評価の方針が関係法令に適合しているか確認する。	自己点検・評価の方針が関係法令に適合していることを確認した。	A
1-2 自己点検・評価の体制（委員会等）に不備はないか。	委員会等の構成を確認する。	適切な体制となっていることを確認した。	A
1-3 自己点検・評価の基準や項目は適切であるか。	学校教育法第109条に沿った自己点検・評価の基準及び項目となっているか点検する。	適切であることを確認した。	A
【自己点検・評価の実施】			
1-4 文書管理規則に従い、資料は適切に管理・保管されているか。	文書管理規則に従い、適切に管理・保管する。	一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。また一部学科からPC故障による成績資料保管の不備が報告された。	B
1-5 自己点検・評価を定期的に行い、その結果を公表しているか。	自己点検・評価を実施し、公表する。	令和6年度に係る自己点検・評価を実施し、5月にHPにて公表した。	A
【学内意見聴取】			
1-6 自己点検・評価は教員の意見を反映しているか。	教員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	授業改善アンケート報告書兼授業改善計画書及び職務上の活動に関する自己申告書を評価結果に反映した。	A
1-7 自己点検・評価は事務職員の意見を反映しているか。	事務職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	各部署の点検結果を評価結果に反映した。	A
1-8 自己点検・評価は技術職員の意見を反映しているか。	技術職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	実験室・演習室の整備状況等の評価結果を反映した。	A
1-9 自己点検・評価は学生の意見を反映しているか。	学生への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	学生に対する各種アンケートの調査結果を評価に反映した。	A
1-10 自己点検・評価は学生の授業評価の結果を踏まえて行っているか。	学生の授業評価の結果を自己点検・評価に検討・反映する。	授業改善アンケートの調査結果を評価に反映した。	A
1-11 自己点検・評価は学生の教育・学習の達成度を踏まえて行っているか。	学生の教育・学習の達成度を自己点検・評価に検討・反映する。	卒業・修了時アンケートの調査結果を評価に反映した。	A
1-12 自己点検・評価は学生の学習環境を踏まえて行っているか。	本校の教育に関するアンケートを実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	教育に関するアンケートの調査結果を評価に反映した。	A
1-13 自己点検・評価は学生の満足度を踏まえて行っているか。	学生の満足度を自己点検・評価に検討・反映する。	卒業・修了時アンケート及び、授業改善アンケートの調査結果を評価に反映した。	A
【学外意見聴取】			
1-14 自己点検・評価に際し、保護者の意見を反映しているか。	保護者への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	保護者会質問事項への対応を評価に反映した。	A
1-15 自己点検・評価に際し、卒業生の意見を反映しているか。	今回は令和9年度に実施予定である。	令和7年度未締切で本校の教育に関するアンケートを実施した。	A
1-16 自己点検・評価に際し、就職先企業の意見を反映しているか。	今回は令和9年度に実施予定である。	令和7年度未締切で本校の教育に関するアンケートを実施した。	A
1-17 自己点検・評価に際し、進学先教育機関の意見を反映しているか。	進学先教育機関から意見を収集・検討し、自己点検・評価に反映できる仕組みを整備する。	令和7年度未締切で本校の教育に関するアンケートを実施した。	A
1-18 自己点検・評価は卒業生・修了生の学習成果の効果を踏まえて行っているか。	今回は令和9年度に実施予定である。	令和7年度未締切で本校の教育に関するアンケートを実施した。	A
1-19 自己点検・評価は就職先・進学先における学習成果の効果を踏まえて行っているか。	本校の教育に関するアンケートを実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	令和7年度未締切で本校の教育に関するアンケートを実施した。	A
1-20 自己点検・評価結果を改善に結び付ける体制となっているか。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっているか確認する。各部署の改善の取り組みを集約し、報告する。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付ける体制となっていることを確認した。	A
1-21 前回機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続しているか。	令和2年度機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続する。	令和6年度自己点検・評価結果をHPにて公開した。試験問題にける同一出題の防止、シラバスに沿った評価についてFDを行った。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
1-22 運営諮問会議における指摘・コメントに対する対応を行っているか。	運営諮問会議において意見を聴取し、その課題に対する改善を行う。	意見のあった多様性への配慮を踏まえて、学内の組織の改編を検討している。	A
【3つの方針】			
1-23 学習・教育目標は適切であるか。	学習・教育目標は適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	令和8年度からの新カリキュラムに合わせた3つのポリシーへの変更に伴い、3つのポリシーと学習・教育目標の関係について第5回教務委員会において議論した。 第4回専攻科委員会において各学科に審議を依頼し、第6回専攻科委員会において各学科の審議結果を基に議論した。	A
1-24 ディプロマポリシーは適切であるか。	DPが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	令和8年度からの新カリキュラムに合わせた内容に変更し、第5回教務委員会及び第4回運営委員会で審議し、承認された。 第4回専攻科委員会において各学科に審議を依頼し、第6回専攻科委員会において各学科の審議結果を基に議論した。ディプロマポリシーに一部修正の必要があるという意見があったため、確認を行い、改めて審議することとなった。	A
1-25 カリキュラムポリシーは適切であるか。	CPが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	令和8年度からの新カリキュラムに合わせた内容に変更し、第5回教務委員会及び第4回運営委員会で審議し、承認された。 第4回専攻科委員会において各学科に審議を依頼し、第6回専攻科委員会において各学科の審議結果を基に議論した。	A
1-26 アドミッションポリシーは適切であるか。	APが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	第10回入学試験委員会において議論した。 第4回専攻科委員会において各学科に審議を依頼し、第6回専攻科委員会において各学科の審議結果を基に議論した。	A
基準2 教育組織及び教員・教育支援者等			
【教育に係る組織の体制】			
2-1 学科・専攻の構成は適切であるか。	学科・専攻の構成が適切であるか審議する。	機能強化支援事業において社会ニーズに対応した学科改組やコース設置を行い、次年度から新たな構成で取り組むこととしている。	A
2-2 教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか。	教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか審議する。 教育活動を展開するための各種委員会を適切に開催する。	各種委員会、学科会議を定期的に開催している。	A
【教員】			
2-3 一般科目の教員配置は適切であるか。	一般科目の教員配置が適切であるか検証する。	設置基準を満たすために基幹教員制度を導入した。	A
2-4 専門科目の教員配置は適切であるか。	専門科目の教員配置が適切であるか検証する。	設置基準を満たしていることを確認した。	A
2-5 教員の採用は公募により適切に行われているか。	公募により教員の採用を行う。	適切であることを確認した。	A
2-6 教員の昇任は適切に行われているか。	教員の昇任を適切に行う。	適切であることを確認した。	A
2-7 教員の評価は適切に行われているか。	教員の評価を実施する。	教員相互評価、学生による教員評価、自己評価、教員ヒアリングで適切に実施する。	A
2-8 教育方法に関するFDが実施されているか。	教育方法に関するFDを実施する。	4月、12月に教員FDを実施した。	A
2-9 FDが教育の改善に結び付いているか。	FD後にアンケートを実施し、教育が改善されているか確認する。	4月に機関別認証評価における教育活動の点検と評価等の項目について紹介し、試験問題の作成に関する本校の取組についてFDを実施し、同一問題などの問題作成について意見交換を行った。 12月ではKIS認定に関するFDを実施した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
【教育支援者】			
2-10 教育支援者（事務職員、技術職員、図書館職員）の配置は適切であるか。	教育支援者の配置が適切であるか検証する。	令和8年度職員の新規採用においては、選考採用を実施した。令和8年1月から1名を採用予定である。計画では2名の採用が目標であるため、機械系1名の募集を継続している。	A
2-11 教育支援者に対するSDが実施されているか。	学内SDを実施する。また、高専機構等主催のSDに参加する。	事務職員の業務能力向上・業務理解促進のため、高専機構、大学、人事院等の外部機関主催の研修に参加している。 高専機構主催の学務担当者向けオンデマンド研修に参加している。（第1回1名、第2回2名） 技術職員の技術能力向上の為、技術職員を講師とする学内SDを令和8年3月6日に実施した。また、高専機構や大学主催の研修に技術職員が参加した。	A
基準3 学習環境及び学生支援等			
【施設・設備】			
3-1 校地面積は適切であるか。	校地面積が適切であるか検証する。	設置基準に定められた面積を満たしており、必要な施設を有している。	A
3-2 校舎面積は適切であるか。	校舎面積が適切であるか検証する。	設置基準に定められた面積を満たしており、必要な施設を有している。	A
3-3 実習工場は適切に整備されているか。	機械工作実習に必要な設備・機材を整備・準備する。	・本校で実施している旋盤の技能検定について、学内で予算措置が講じられたことにより、加工に必要な切削工具や測定工具が充実し、学生教育の質の向上につながっている。 ・旋盤1台が、主要稼働装置の不具合により使用停止となっていたが、現在は修理が完了しており、実習工場の設備および機材はすべて適切に整備されている。	A
3-4 各実験室は適切に整備されているか。	実験に必要な設備・機材を整備・準備する。	実験に必要な設備・機材の整備・準備を行った。	A
3-5 各施設・設備の安全衛生管理体制は機能しているか。	定期的に安全衛生委員会を開催する。	定期的に安全衛生委員会を開催している。	A
3-6 バリアフリー化への配慮を行っているか。	バリアフリー化への配慮を継続する。	現在必要とされている範囲の整備が完了している。	A
3-7 施設・設備に関する満足度を調査しているか。	施設・設備に対する満足度を調査する。	施設満足度についてアンケートを実施した。	A
3-8 施設・設備の満足度を向上するための改善を行っているか。	満足度を向上するための改善を行う。	継続的に改善を実施している。情報教育棟の建築（令和8年8月末完成）、一部の教室の机及び椅子を更新し、一部の教室用プロジェクタの映像入力をHDMI端子へ変更、第二体育館の雨漏りを修繕など環境整備を進めている。	A
【ICT環境】			
3-9 ICT環境の整備は適切であるか。	ICT環境を適切に整備する。	POESWの増設、制御棟のネットワーク整備を行った。	A
3-10 ICT環境のセキュリティ管理体制は適切に機能しているか。	情報セキュリティ管理を徹底する。	各種委員会を開催し、対応している。学内向け「クラウドサービス利用運用ガイドライン」を作成した。	S
3-11 ICT環境は有効に活用されているか。	ICT環境を有効利用する。	利用実績等を収集している。	A
3-12 ICT環境に対する満足度を調査しているか。	ICT環境の満足度調査を実施する。	昨年度に全学生を対象として実施した満足度調査の結果に基づき、改善可能な内容について改善を行った。今年度も、全学生を対象に満足度調査を実施した。	S

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
【図書館】			
3-13 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集・整理されているか。	図書等を適切に管理するとともに、新規図書等を適切に収集する。	図書管理、新規図書購入を実施中。教職員、学生からの希望図書を募集した。	A
3-14 図書、学術雑誌、視聴覚資料等は有効に活用されているか。	図書等の利用状況を調査する。	利用実績等を収集している。	A
3-15 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が有効に活用されるための取り組みを行っているか。	図書等の利用を促進する取り組みを実施する。	ポスターコンクール、ブックハンティング等利用推進のイベントを実施した。教職員、学生からの希望図書募集した。図書館だよりを年2回発行した。	S
【ガイダンス】			
3-16 準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	新入生オリエンテーションを適切に実施した。	A
3-17 専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	1学期および3学期の開始時、学年ごとにオリエンテーションを実施している（担当：専攻科長）	A
3-18 編入生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	編入生に対する教育上のガイダンスを実施する。	留学生オリエンテーションと併せて編入生オリエンテーションを行っている。今年度は、編入生が在籍していないため行っていない。	-
3-19 留学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	留学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	留学生オリエンテーションを適切に実施した。	A
3-20 障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	入学時に提出する健康調査票に記載のあった学生や出身中学校から障害に関して連絡のあった学生に対して修学支援に関する説明を行った。必要に応じて保護者に対しても面談を実施した。オープンキャンパスでは参加者の個別相談に対応するため、修学支援関係のブースを設けた。学生本人や保護者、担任、カウンセラー等から支援依頼があった場合はその都度学生等と面談を行って要望を伺い、可能な支援について説明を行った。	A
3-21 社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	社会人学生は、他の学生と同じオリエンテーションに参加することとしている。固有の問題があれば専攻科及び指導教員が対応することになっている。	A
【学生のニーズ把握・支援】			
3-22 担任制・指導教員制は有効に機能しているか。	本科においては、担任指導、担任情報共有会を実施する。 専攻科においては、指導教員マニュアルを配付し、指導教員による指導を行う。	担任のしおりの配付及び担任情報共有会を4回実施した。 サイボウズに指導教員マニュアルを用意しており必要に応じて指導教員がダウンロード可能である。新任教員のため、5月に専攻科生指導のための説明会を開催している（今年度は希望者がいなかったため開催していない）。	A
3-23 オフィスアワーは有効に機能しているか。	オフィスアワーを実施し、利用者数を把握する。	前期・後期での実施計画を作成して周知した。年度末に学生相談室が行う相談件数調査のデータをもとにオフィスアワーの実績を把握する。	A
3-24 保健室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	年度末に利用実績を集計した。	A
3-25 相談室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	年度末に利用実績を集計した。	A
3-26 キャリア相談室・資料室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	教育コーディネーター1名が対応した学生のキャリア相談件数（4～3月）は191件（実数52名）であった。 また、卒業生のUターンシステム利用相談件数（4～3月）は4件（実数4名）であった。キャリア支援室では利用状況を数値化し各学科へ発信することにより、キャリア教育の質向上を図っている。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
3-27 （障害学生）修学支援は有効に機能しているか。	ウォッチリスト等により対象学生を把握するとともに支援状況を適宜学科に報告する。	修学支援室において対象学生のウォッチリストを作成し、1月に1回程度、学生支援センター連絡会議、修学支援室会議で情報共有した。支援が必要な学生および気になる学生については、学科長を中心に関係教員に情報共有した。ウォッチリストに記載のある学生について適宜面談を実施するとともに、記載の有無にかかわらず支援依頼があった場合はその都度学生等と面談を行った。現在までに5名の面談を行い、学生支援計画書1件、修学支援願2件を受け付けた。	A
3-28 学生への経済的支援（授業料免除、各種奨学金）は有効に機能しているか。	実績を把握する。	日本学生支援機構の給付型奨学金を131名、貸与型を28名が利用した。その他、財団や本校独自の奨学金を利用している。	A
3-29 資格・検定試験支援制度は有効に機能しているか。	実績を把握する。	技能検定を新たに支援制度に追加し、受験者に対して技術指導を実施している。令和7年度は延べ127名が利用した。	S
3-30 海外への留学支援は有効に機能しているか。	実績を把握する。	留学交流室において、海外研修プログラムを策定し、募集を行った。（夏季：プログラム10件、研修参加者：62名、春季：3件、研修参加者：16名）海外研修実施にあたり、渡航前にオリエンテーションを実施した。夏季海外研修の成果報告会を実施した。	A
3-31 学生会あるいは学生との懇談会を実施しているか。	学生会との懇談会を実施する。	定期的（週1回）に学生会との懇談会を実施しており、1月にリーダー研修を実施した。	A
【キャリア指導・支援】			
3-32 進路指導ガイダンスを実施しているか。	ジェネリックスキルにおいてキャリア教育を実施する。	就職が決定した現5年生を対象に8月にアンケート調査を実施し、キャリア教育の効果を検証した。具体的には、低学年へのキャリア教育の追加、ならびに3・4年生を対象としたジェネリックスキル教育について、内容の改訂および実施時期の見直しを行った。	S
3-33 進学・就職に関する説明会を実施しているか。	進学・就職に関する説明会を実施する。就職・進学活動に関するガイドブックを配布する。	就活アンケートの学生の困り事対応で、就職進学活動ガイドブックの内容を見直し、大幅な改訂を行った。「就職・進学活動のメンタルヘルス講習会」でガイドの説明を4年生に対して11月中旬に前倒して実施し、12月12日の合同企業研究会につなげた。	S
【課外活動】			
3-34 課外活動に対する支援は有効に機能しているか。	学生会を通じた活動費の配分や課外活動指導員の採用などの支援を行う。	日本体育大学と包括連携協定を締結し、FD・SD研修や課外活動指導員に対する講習会を実施した。	S
3-35 課外活動に対する責任体制は適切であるか。	責任体制を明確にするとともに、教員と学生に周知する。	課外活動に係る活動方針の見直し及び周知を実施した。	A
3-36 課外活動に対する責任体制は有効に機能しているか。	責任体制が有効に機能しているか検証する。	クラブ指導教員会議を開催し、安全管理について周知を行った他、課外活動指導員との連絡体制構築を行った。また、課外活動巡視員を2名雇用し、土曜日の課外活動の安全管理を行っている。	S
【学生寮】			
3-37 学生寮は生活の場として有効に機能しているか。	生活の場として有効に機能しているか検証する。	寮生会を通じて、学生の要望や意見の集約を行った。	A
3-38 学生寮は勉学の場として有効に機能しているか。	勉学の場として有効に機能しているか検証する。	寮生会主催で週に1回程度、低学年生を対象とした勉強会を実施した。	S
3-39 学生寮の管理・運営体制は有効に機能しているか。	管理・運営体制が有効に機能しているか検証する。	定期的に寮務部打合せ及び学寮委員会を開催し、管理・運営に関する審議を行った。	A
【いじめ防止・対策】			
3-40 いじめ防止・対策のための体制が整備されているか。	いじめ対策委員会の規則及び体制が適切を確認する。	学生支援センター体制によるいじめ防止及び早期発見に努めている。	S
3-41 いじめ防止・対策の組織が有効に機能しているか。	いじめ対策委員会を定期的に開催する。	いじめ対策委員会を10回開催（定例6回、臨時4回）した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
基準4 財務基盤及び管理運営			
【財務】			
4-1 貸借対照表等による財務状態は適切であるか。	適切な会計処理を実施する。	恒常的に月次決算等で確認している。	A
4-2 運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。	適切な会計処理を実施する。	恒常的な収入を確保し、月次決算等で確認している。	A
4-3 収支状況が支出超過となっていないか。	適切な会計処理を実施する。	支出超過とならないよう月次決算等で確認している。	A
4-4 収支に係る方針、計画が適切なプロセスで決定されているか。	適切なプロセスで予算を決定する。	適切であることを確認した。	A
4-5 収支に係る方針、計画は適切であるか。	予算計画が適切であるか検証する。	適切であることを確認した。	A
4-6 収支に係る方針、計画は教職員に明示されているか。	予算計画を教職員に明示する。	適切であることを確認した。	A
4-7 収支に係る方針、計画と資源配分が整合しているか。	予算と資源配分の整合性を検証する。	当初予算配分に基づき予算配分し、追加予算については都度、予算委員会を開催して決定している。	A
4-8 財務状況が法令に基づき適切に作成・公表されているか。	財務状況を作成し、公表する。	適切であることを確認した。	A
4-9 財務に係る監査が適切に実施されているか。	適切な監査を実施する。	内部監査を11月～1月にかけて実施した。	A
【管理運営】			
4-10 管理運営体制が有効に機能しているか。	管理運営体制が有効に機能しているか検証する。	各種委員会を整備し、定期的または必要に応じて開催している。	A
4-11 管理運営に係る委員会が有効に機能しているか。	管理運営に係る委員会が有効に機能しているか検証する。	各種委員会を定期的または必要に応じて開催し、所掌事項を審議・報告している。学内で開催される全ての委員会の議事概要等を全教職員が共有できるようにしている。	S
4-12 校長、主事等の役割分担は適切であるか。	校長、主事等の役割分担が適切であるか検証する。	適切であることを確認した。	A
4-13 教員と事務職員の役割分担は適切であるか。	教員と事務職員の役割分担が適切であるか検証する。	適切であることを確認した。	A
4-14 教員と事務職員との連携体制が有効に機能しているか。	教員と事務職員の連携体制が有効に機能しているか検証する。	適切であることを確認した。	A
【危機管理】			
4-15 危機管理体制が有効に機能しているか。	危機管理体制が有効に機能しているか検証する。	リスク管理室会議を41回開催し、適宜機構本部等関係機関と連携して危機対応を行った。	A
4-16 危機管理マニュアルは適切であるか。	危機管理マニュアルの見直しを行う。	リスク管理室会議にて年度内に危機管理マニュアルの見直しを行い、運営委員会にて報告、教職員に周知した。	A
4-17 危機に備えた訓練を実施しているか。	避難訓練を実施する。	10月21日に校舎地区防火避難訓練の実施を予定していたが、コロナ感染拡大防止のため机上訓練に切り替えて実施し、併せて安否確認訓練を実施した。	A
【外部資金の活用】			
4-18 外部資金を獲得する取り組みを行っているか。	外部資金獲得のための講演会や説明会を実施する。	外部資金を獲得する取り組みを行った。	A
4-19 公的資金が適切に管理されているか。	公的資金を適切に管理する。	適切であることを確認した。	A
4-20 公的資金を適切に使用するための取り組みが行われているか。	公的資金の不正使用防止のための研修を実施する。	適切であることを確認した。	A
【外部教育資源の活用】			
4-21 外部の教育資源を有効に活用しているか。	外部教育資源を有効活用する。	ジェネリックスキルの中で外部組織との連携による授業コンテンツを活用した。外部講師による講習会を実施した（いじめ防止・薬物乱用防止・SNSトラブル防止）。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
【スタッフ・ディベロップメント】			
4-22 SDが適切に実施されているか。	学内SDを実施する。また、機構主催のSDに職員を派遣する。	事務職員の業務能力向上・業務理解促進のため、高専機構、大学、人事院等の外部機関主催の研修に参加した。 高専機構主催の学務担当者向けオンデマンド研修に参加した。（第1回1名、第2回2名）	A
【情報公開】			
4-23 法令に従い、学校の目的及び3つの方針が公表されているか。	学校の目的及び3つの方針をHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-24 法令に従い、教育研究上の基本組織が公表されているか。	組織図をHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-25 法令に従い、教員組織、教員の数並びに教員が保有する学位及び業績が公表されているか。	教員組織、教員の数、学位、業績をHPにより公表する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-26 法令に従い、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況が公表されているか。	各種データを学校要覧に記載するとともにHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-27 法令に従い、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画が公表されているか。	シラバス一覧、シラバス及び行事予定表をHPにより公開する。	HPにて公開している。	A
4-28 法令に従い、学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準が公表されているか。	成績評価基準、卒業・修了認定基準をHP（学則・教務規則）により公開する。	HPにて公開している。	A
4-29 法令に従い、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境が公表されているか。	学校の施設・設備及び教育研究環境をHP（学校要覧）により公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-30 法令に従い、授業料、入学金その他の高等専門学校が徴収する費用が公表されているか。	授業料、入学金その他の費用をHP（学校案内）により公開する。	学校案内、HP等にて公開している。	A
4-31 法令に従い、高等専門学校が行う学生の学修、進路選択及び心身の健康等に係る支援が公表されているか。	学修支援室、キャリア支援室、学生相談室及び保健室等の支援体制をHP（学校要覧）により公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-32 学校の目的及び3つの方針が教職員、学生に周知されているか。	学校の目的及び3つの方針を学内関係者に周知するとともにHPにより公開する。	HP等にて公開し周知している。	A
基準5 準学士課程の教育課程・教育方法			
【教育課程の編成・内容・方法】			
5-1 カリキュラムポリシーに照らし、授業科目の配置は適切であるか。	授業科目の配置が適切であるか議論する。	各学科会議で議論を行った。	A
5-2 一般教育は充実しているか。	一般教育が充実しているか議論する。	各学科会議で議論を行った。	A
5-3 進級に関する規定は適切であるか。	進級に関する規定が適切であるか議論する。	昨年度の情報教育推進会議で、現状の進級要件を踏まえR8年度新カリキュラムについては、低学年の単位数を揃えることとした。その結果を、改組に伴う学則変更にも反映させている。	A
5-4 授業を行う期間は35週が確保されているか。	35週を確保する。	行事予定表を作成する際に35週を確保している。	A
5-5 特別活動は90単位時間以上確保されているか。	90単位時間以上確保する。	ホームルーム実施計画表を作成する際に確認、90単位時間以上を確保した。	A
5-6 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえた教育課程における配慮がなされているか。	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請を踏まえ、教育課程における配慮を行う。	夏季においては前年度よりも多くの学生が留学し、グローバルエンジニア育成事業に係る学生数が増えた。また、地域教育など課題解決型の授業を通して、コンテストに参加する学生が増えた。	S
5-7 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。	創造力を育む教育方法の工夫を行う。	プロジェクト学習に13件のアントレ課題を設定し実践した。さらに、宇部市高校生ビジネスプランコンテストに3グループがエントリーした。また、ジェネリックスキルにおいてもアントレプレナーシップに関する2本の動画を公開した。	A
5-8 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。	実践力を育む教育方法の工夫を行う。	リサーチワークショップ、卒業研究を実施した。	A

S:特に優れている A:良好である B:概ね良好である C:不十分である -:該当なし

検証(点検)項目	実施計画	実施状況	評価
5-9 数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の点検・改善活動を行っているか。	数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)の点検・改善活動を行う。	1、2年生に理解度アンケートを実施して点検・改善活動を行った。	A
【授業形態・学習指導法】			
5-10 カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置について議論する。審議内容を議事録に残す。	各学科会議で議論を行った。	A
5-11 教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。実施内容は職務上の活動に関する自己申告書により申告する。	シラバスと教育改善アンケート報告書兼改善計画書により確認した。	A
5-12 シラバスが適切に作成および改善されているか。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成する。シラバスの改善状況を調査し、成績資料点検表に記録する。	一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。	B
5-13 学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。初回授業ではシラバスを配布する。	シラバスの活用状況についてアンケートを実施した。	A
5-14 教員はシラバスを有効に活用しているか。	職務上の活動に関する自己申告書により、教員のシラバス活用状況を調査する。	授業改善アンケート兼 授業改善計画書により確認した。	A
5-15 学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。初回授業で事前・事後学習課題一覧を学生に配布する。	授業開始時に事前・事後学習課題を学生に説明して、その一覧を成績資料ファイルに綴じることとしている。	A
5-16 学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	授業改善アンケート集計結果で把握し、必要に応じた改善を行うように教務委員会で検討する。	A
【成績評価・単位認定・卒業認定】			
5-17 成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。各学科内で点検し、議事録に記載する。	一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。また一部の学科からPC故障による成績資料保管の不備が報告された。	B
5-18 単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	各学科で確認した。	A
5-19 成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況の調査を行った。	A
5-20 試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	試験返却時間割を作成して、実施している。	A
5-21 試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。	B
5-22 複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。	B
5-23 卒業認定基準を学生に周知しているか。	卒業認定基準を学生に周知する。	入学時に配布する学生便覧および学校HPに教務規則を掲載することで周知している。	A
5-24 卒業認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	卒業認定基準の周知状況をアンケートにより調査する。	Formsにより卒業・進級認定基準についての理解度調査を実施している。	A
基準6 準学士課程の学生の受け入れ			
【準学士課程の学生の受け入れ】			
6-1 アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	APに沿った学力選抜試験を実施した。	A
6-2 アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	APに沿った推薦選抜試験を実施した。	A
6-3 アドミッションポリシーに沿った帰国生徒選抜試験が実施されているか。	APに沿った帰国生徒選抜試験を実施する。	APに沿った帰国生徒選抜試験を実施した。	A
6-4 入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学学生がAPに沿っているか検証する。特に、推薦選抜試験による入学者に対しては、採点基準が適切であるか分析する。	令和6年度推薦入試での活動記録の評価と入学後の成績の相関を確認し、活動記録による評価を廃止した。	A
6-5 検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	活動記録による評価を今年度の推薦入試から廃止、昨年度の推薦入試から募集人員を5割に増員した。	A
6-6 入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	各学科の令和8年度入学者数は、定員40名に対して、40~41名であり、適切であると判断した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
6-7 入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	今年度入学においては、定員に対する入学者に大きな過不足が生じていないため、該当しない。定員に対する入学者に大きな過不足が生じた場合は、入学試験委員会で改善計画を策定することとなる。	-
基準7 準学士課程の学習・教育の成果			
【準学士課程の学習・教育の成果】			
7-1 成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業及び進級認定会議を実施する。	卒業認定会議及び進級認定会議を実施した。	A
7-2 卒業時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業時に学生へのアンケート調査を行う。	卒業時に学生へのアンケート調査を行った。	A
7-3 卒業生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	宇部高専の教育に関するアンケート（5年に一度）回答結果も踏まえて、情報教育推進室会議や教務委員会で協議を行っている。	A
7-4 就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	宇部高専の教育に関するアンケート（5年に一度）回答結果も踏まえて、情報教育推進室会議や教務委員会で協議を行っている。	A
7-5 進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	宇部高専の教育に関するアンケート（5年に一度）回答結果も踏まえて、情報教育推進室会議や教務委員会で協議を行っている。	A
7-6 就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	就職率は99.2%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
7-7 進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	進学率は98.5%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
7-8 就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各学科のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。検証結果は学科会議事録に記載する。	各学科会議で議論を行った。	A
基準8 専攻科課程の教育活動			
【教育課程の編成・内容・方法】			
8-1 カリキュラムポリシーに照らし、適切な授業配置となっているか。	授業科目の配置が適切であるか各専攻に審議を依頼する。	第4回専攻科委員会にて各学科に審議を依頼し、その結果を基に第6回専攻科委員会で審議した（改正なし）。	A
8-2 専攻科の教育課程は準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか。	専攻科の教育課程が準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか各専攻に審議を依頼する。	準学士課程のカリキュラム改善を受け、令和5年度より準学士課程の教育を発展させた新カリキュラムとなっている。現カリキュラムの課題として「専門英語」が挙げられたため、各学科に改善策についての審議を依頼した（第6回専攻科委員会）。	S
【授業形態・学習指導法】			
8-3 カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置が適切であるか各専攻に審議を依頼する。	第4回専攻科委員会にて各学科に審議を依頼し、その結果を基に第6回専攻科委員会で審議した（改正なし）。	A
8-4 教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。実施事項は職務上の活動に関する自己申告書に記載する。また、各専攻に学習指導上の工夫に関するアンケートを実施し、専攻科委員会でまとめる。	各学科に学習指導上の工夫について調査を依頼し、その結果を専攻科委員会で共有した。	A
8-5 学生への教養教育や研究指導が適切に行なわれているか。	教養教育や研究指導を適切に行う。	1月に学生向けのアンケートを実施し、その結果を第6回専攻科委員会で共有し審議を行った。「専門英語」の改善策を各学科に依頼した。	A
8-6 シラバスが適切に作成および改善されているか。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成する。シラバスの改善状況を調査する。	各学科で確認した。	A
8-7 学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。初回授業ではシラバスを配布する。	教育に関するアンケートによる調査を行った。	A
8-8 教員はシラバスを有効に活用しているか。	職務上の活動に関する自己申告書により、教員のシラバス活用状況を調査する。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書により確認した。	A
8-9 学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。初回授業で事前・事後学習課題一覧を学生に配布する。	一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。	B
8-10 学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	1月に学生向けのアンケートを実施し、その結果を第6回専攻科委員会で共有し審議を行なった。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
【成績評価・単位認定・卒業認定】			
8-11 成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。学科会議にて審議し、会議議事録に記載する。	各学科で確認した。	A
8-12 単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	各学科で確認した。	A
8-13 成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	教育に関するアンケートを行った。	A
8-14 試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果により実施状況を確認した。	A
8-15 試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。専攻科委員会や学科会議にて審議し、会議議事録に記載する。	一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。	B
8-16 複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。点検結果は学科会議議事録に記載する。	一部の学科から当該項目を含む成績資料点検が遅れていると回答があった。	B
8-17 修了認定基準を学生に周知しているか。	修了認定基準を学生に周知する。	1、3学期開始時のオリエンテーションにおいて説明している。	A
8-18 修了認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	修了認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	令和8年1月に学生向けのアンケートを実施した結果、修了認定基準を知らないと回答した学生は1名であった。	A
【専攻科課程の学生の受け入れ】			
8-19 アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	7月16日にAPに沿った学力選抜試験を実施した。	A
8-20 アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	5月20日にAPに沿った推薦選抜試験を実施した。	A
8-21 アドミッションポリシーに沿った社会人選抜試験が実施されているか。	APに沿った社会人選抜試験を実施する。	社会人特別選抜試験への出願はなかったため実施しなかった。	A
8-22 入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学学生がAPに沿っているか検証する。	休学生を除き全員が修了および学位取得できておりAPに沿った学生の受け入れができていると判断できる。	A
8-23 検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	数学の外部試験導入について専攻科入試委員会で審議を行ったが直ちに導入とはならず今後準学士課程の数学教育の議論と合わせて継続審議することになった。	A
8-24 入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	令和8年度入学者は31名（定員の1.55倍）であり、適正であると判断していたが、学位授与機構からの指摘があり定員の適正な管理に関する申し合わせの改正を行った。	A
8-25 入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	令和8年度入学確約者は31名（定員の1.55倍）であり、大幅な超過は無いと判断していたが、学位授与機構からの指摘があり定員の適正な管理に関する申し合わせの改正を行った。	A
【専攻科課程の学習・教育の成果】			
8-26 成績評価・修了認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了認定会議を実施する。	2月5日に修了認定会議を実施した。	A
8-27 修了時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了時に学生へのアンケート調査を行う。	令和8年1-2月に実施した。	A
8-28 修了生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	現カリキュラムは令和4年度のアンケート結果を受けた改善がなされている。	A
8-29 就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	現カリキュラムは令和4年度のアンケート結果を受けた改善がなされている。	A
8-30 進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	現カリキュラムは令和4年度のアンケート結果を受けた改善がなされている。	A
8-31 就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	就職率は100.0%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
8-32 進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	進学率は100.0%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
8-33 就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各専攻のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。	各学科で確認した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である -：該当なし

検証（点検）項目	実施計画	実施状況	評価
基準9 研究活動の状況			
【研究活動の体制】			
9-1 研究活動の目的、方針は適切であるか。	本校の研究活動の目的及び方針が適切であるか審議する。	適切であることを確認した。	A
9-2 研究活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	研究活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	必要に応じ、地域共同テクノセンター委員会および地域共同テクノセンター推進室会議を開催した。	A
【研究活動の状況】			
9-3 研究活動が十分に行われているか。	研究活動の状況を把握する。	研究活動把握のため調査を行った。地域共同テクノセンターNews & Reportsで公開する。	A
【研究活動の成果】			
9-4 目的、方針に沿った研究活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った研究成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	適切であることを確認した。	A
基準10 地域貢献活動等の状況			
【地域貢献活動の体制】			
10-1 地域貢献活動の目的、方針は適切であるか。	地域貢献活動の目的及び方針が適切であるか審議する。	学外イベント出店のあり方を検討した	A
10-2 地域貢献活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	地域貢献活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	今後の地域貢献活動に関して、テクノセンター推進室会議、テクノセンター委員会での決定に基づいて方針の変更を行なった。	A
【地域貢献活動の状況】			
10-3 地域貢献活動は十分に行われているか。	地域貢献活動の状況を把握する。	地域貢献活動の把握のため調査を行った。地域共同テクノセンターNews & Reportsで公開する。	A
【地域貢献活動の成果】			
10-4 目的、方針に沿った地域貢献活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った地域貢献活動の成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	適切であることを確認した。	A